

TDAサロンの予定と概要

- 会員交流の場として、サロンを発足させます。月2回位のペースで毎回、ゲストを囲んで気楽に、軽い飲食とともに語り合う場としたいと思います。
- 原則、毎月第2、第4木曜日の18:30より開催します。(各回、メールでの事前案内を確認してください)
- 場所:TDA事務所 渋谷区千駄ヶ谷3-28-8 鳩森ビル 304号(地図 HP参照)
- 会費:500円+飲物・つまみをご持参ください。
- 準備の都合の都合上、出来るだけ参加される方は「呼掛け人」まで事前連絡をお願いいたします。

回	(予定)日時	ゲスト	呼掛け人	出席	テーマ	内容	備考
第1回	2010年 12月2日 (木)	渡辺治郎さん	高橋	粕谷、山内、田淵、 白勢、曾根、土田、 八木、高橋	カトマンズでのJICA シニアボランティア 活動	渡辺氏は2008年より2年間、都市計画、特にごみ処理の専門家としてネパール国の首都、カトマンズに派遣された。市内のごみ廃棄の路上観察、出会った人々、政府によるコンポストプラントの現状などの報告がユーモラスに行われた。 ・(関連報告)ナウリコット周辺の紹介として、アッパームスタン地域(カグベニ、ムクチナート)やポカラ近郊の最近のエコリゾートの紹介(高橋)。	配布資料あり
第2回	2011年 1月27日(木)	遠藤勝勸さん	曾根	曾根、土田、角田、 八木、実石、高橋	遠藤さんの建築姿勢と、 菊竹建築の裏話	建築の設計活動のほとんどを菊竹清訓事務所で過ごした遠藤勝勸さんの建築を愛する姿勢を伺います。 建築を宙に浮かし海に広げることを発想し続けた菊竹さんとそれを支えた遠藤さんの裏話には抱腹爆絶倒するものがあります。	
第3回	2月10日 (木)	森 一朗さん	高橋	土田、曾根、角田、 鈴木、八木、小松、 高橋	観光交流空間	日本設計を退職後、「デザイン・森」を設立し、ホテルや観光施設等の設計で活躍中。「ホテル経営とデザイン」について現在のホテルデザインの世界的流行について、具体的かつ蘊蓄に富んだ解説。(社)国際観光施設協会副会長として自主的に取り組む「観光地評価ワーキンググループ」の活動と、観光地の更なる活性化に向けて、「白骨温泉のケーススタディ」の報告。加えて、古くからのヨットマンとして葉山ヨットクラブの活動などの紹介。	配布資料あり
第4回	2月24日 (木)	角田修一さん	曾根	土田、曾根、森、鈴木、 田口、小松、高橋	近年の都市開発事情	清水建設で建築企画営業という、川上段階から官・産・学を巻き込み大規模プロジェクトの掘り起こしを行う手法を開発した本人から話を伺う。特に、幕張開発では民間5社で研究会を設け、氏が世話役を務めて、最初のメッセ建設から業務、商業、ペイタウン開発に続く物語の本音と裏話は興味深いものであった。また、都市開発に関わる国内外の動向について、具体的な経済データから今後の可能性や厳しい状況も解説された。	
第5回	3月10日 (木)	勝田幸仁朗さん (物林(株)環境緑化部 景観・エクステリア室 室長) 田口慎二さん(同社 公共建築物 木材 利用支援プロジェクト チーム)	土田	鈴木、高橋	昨今の木材市場動向	昨年10月に施行された木材利用促進法は、今後、公共建築物は原則全て木造化を図るという、これまでの国の方針を180度転換するものである。このことは意外とプロの世界でも知られていない。国の成長戦略の一環として、国産材自給率向上を目指すものであるが、各自治体の抱える不安や課題は大きい。国内木材流通の最大ネットワークをもつ物林は、新事業として設計事務所や自治体等の関係機関の連携をつくるプラットフォームの設立を目指している。TDAとしても協力できるビジネス分野である。	PPT資料: 最近の木材業界の動向～木材利用促進法の制定を巡る～
第6回	4月28日 (木)	(高野公雄さん)	高橋	土田、曾根、鈴木、 八木、近田、山内、 杉山、稲田、高橋	東日本大震災の復興を考える	東日本大震災という現実を前に、まちづくりの専門家として、また専門家集団として何ができるのかが問われる。まずは、会員間での情報を共有化し、復興に向けての意見、提案を自由に議論しようという趣旨でサロンを開催し、下記の11名の参加を得た。東北芸術工科大学の名誉教授である高野さんから、今回の被災についてその背景となった東北地方の諸事情を解説して頂いた。また、現地から戻ったばかりの近田玲子氏からの報告も交えて、これからの都市の照明、空調のあり方から土地利用・都市インフラ、ライフスタイルなど広範囲について熱い議論が交わされた。	
第7回	5月12日 (木)	実石欣也さん	曾根	曾根、土田、角田、 八木、遠藤、渡辺、 高橋	塗装業の生立ちと 施工、入札制度と公 正取引委員会など	明治22年、東海道線開通により天竜川、富士川などの架橋と、鉄素材の上に防錆塗装が行われたが、それに従事した職人の多くは静岡県由比町、蒲原町出身者であった。橋梁塗装工事は塗装作業と嵩仕事(高所作業)が混合した専門職であるが、明治以来、この仕事の経営者にはこの地域の出身者が多く、全国の仕事を請けている。実石さんも地元の出身で、戦前から続く平岩塗装の専務をされている。5年に一度、東京タワーの塗り替えをしている会社としても有名である。250mの高さで、鉄骨の上での作業、職人の心意気とそれを纏めていく醍醐味とご苦労を伺った。また、極めて専門的で、古い業界のしきたりなど、職人の現場を知る氏ならではの紹介を頂いた。	資料: ・東京タワー塗装作業新聞記事 ・橋梁塗装の生立ち ・ヨーロッパの橋を訪ねて ・会社概要

第8回	6月2日(木)	粕谷正則さん	高橋	成重、遠藤、八木、曾根、山内、角田、峰岸、高橋	集合住宅の外構・植栽の経年変化とプランナーとしての予測能力など	ランドスケープコンサルタントとして、長年、集合住宅地の植栽設計に関わってきた経験から、その課題と対応について語っていただいた。植栽工事は一般には3年から15年後の完成を予測して計画する。しかし、このような経年変化を予想しない大木の植栽が問題を起すこともある。また、住民、管理組合においては灌木の選定は行うものの、高木の伐採等については総会決議を要し、手続きの煩雑さから密植・放置された植栽も多い。30年も経てば既存木の間引きなどが必ず必要になる。植栽は設計者と販売者だけで決め、居住者の視点が入っていない。また、この業界にはひどい業者がいるとの理由から、行政の規制も多すぎる。専門家の姿勢も問われている。氏は若いころ自ら設計した団地を含めて、管理組合から直接依頼を受け、植栽再生の企画を立案して相談に乗っている。
第9回	6月23日(木)	河野進さん	曾根	遠藤、山内、粕谷、高谷、曾根、土田、角田、高橋	NPO耐震総合安全機構による東日本大震災の被害調査	建築家、河野さんが所属するNPOが構造、設備の専門家も参加して行った被災都市の状況について報告を頂いた。報告都市は、女川、石巻、南三陸町、気仙沼、大船渡、陸前高田、釜石、大槌、山田、田野畑村、田老町、宮古市と今回被災した主要都市の殆どに及んだ。今回の調査は非木造建築が中心で、RC系の公共施設、共同住宅などである。津波による基礎杭の抜け、建物の移動、被害の大小を分けた建物の構造・地盤の状況など、専門家の視点での説明があった。また、高木が建物やガレキの流動を食い止めた事例、また意外とひ弱かった鉄道等の土木構造物などの指摘があり、氏からのまとめと教訓も頂いた。
第10回	7月14日(木)	峰岸久雄さん	八木	曾根、井上、土田、栗原、山内、鈴木、遠藤、稲田、山口、八木	里山の話あれこれ	峰岸氏は、多摩市に住み、仕事でもライフワークでも里山との関わりをもって20年を越えた。このサロンでは昨年秋のCOP10、生物多様性国家戦略、今回の震災復興計画等でも主話題として取り上げられている里山に関する知識とその大切さについて熱く語っていただいた。里山といえば雑木林であり、その中の植生や多種多様な生物たちの話から、竹は一年で成長するがその節の数はすでにタケノコの中に存在するとか、真竹とモウソウ竹の違いは節が2段か1段かを見れば分かるなど、いろいろな豆知識も聞くこともでき、日頃は都市の中で四苦八苦しているメンバーとしては、久々の自然話で肩の力が抜けたひと時であった。